

# 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年11月6日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690102829
法人名	医療法人 萩風会
事業所名	グループホーム 花蓮サテライト
所在地	鹿児島県鹿児島市西谷山二丁目7番38号 (電話) 099-296-1024
自己評価作成日	令和5年10月1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広い公道に面した静かな住宅街にあり、JRの駅(慈眼寺駅)も近く、学校や公園、商業施設等もあり活気のある場所です。ホームは整形外科の2階部分で、変化時などはすぐに医師に相談でき安心できます。看護師による、日ごろの健康観察や、主治医への情報提供等連携も随時行い、入居者・ご家族様が安心でき、笑顔で健やかな暮らしを続けられるよう努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和5年10月25日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、運営母体の医療法人と同一建物の2階に令和5年4月に開設されている。グループホーム花蓮とは管理者が同じであるほかは単独のグループホームとして運営されており、相互の状況把握のためのモニターが設置されている。
- ・母体医療機関や在宅支援診療所等と24時間の協力体制が築かれている。複数配置されている看護職員による健康チェックも行われていることから、医療における家族の安心に繋がっており、家族の意向に沿って看取り介護にも取り組んでいる。
- ・当事業所では、家族との居室面会や受診時の外出も行われ、利用者及び家族の交流支援に取り組んでいる。
- ・管理者及び職員は、開設後間もないことから、休憩時間確保の試行など働きやすい就業環境づくりを話し合い、今後は、計画的な外出支援にも取り組む予定である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人理念「一、家庭的な雰囲気」「二、地域とのふれあいを大切に」「三、一人ひとりの個性を尊重」を基本に、今年の事業所目標「笑顔あふれるグループホーム」を提供できるよう努めています。	理念を重要事項説明書に掲載し、目標と併せてホールに掲示している。申し送りやミーティング時にケアを振り返り、理念に沿ったケアができているか確認し支援に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しているが、感染予防のため、日常的な交流は少ない。	町内会に加入し行事等は把握しているが、まだ行事への参加は見合わせている。開設して6ヶ月であり地域との交流は計画中である。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	感染予防のため、地域への貢献活動は少ない、町内会長や民生委員との連絡は適宜行い、相談の際には対応できるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症も感染分類5類となり、運営推進会議を開催し、ホームの活動報告等や地域の情報を得たり、意見や要望を聞くことが出来ている。	2ヶ月に1回、法人内事業所と合同で対面の運営推進会議を実施している。地域行事や情報を把握したり、事業所の状況報告及び身体拘束適正化委員会や行事等への事業所の取組みを理解してもらう良い機会となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	長寿あんしん相談センターの職員の方の運営推進会議への参加や福祉事務所の生活保護担当の方など、情報提供や共有が出来る様になっている。	支所の職員とは日頃から連携を図っており、本庁との電話相談や生活保護担当者と来訪時に意見交換などを行って協力関係を築いている。介護相談員を受け入れ予定であり、市のオンライン研修も受講している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月のミーティングや定期的な委員会を開催し、事業所内研修でも、身体拘束についての知識を深め「身体拘束をしない介護」に努めている。	指針を作成しており、委員会を3ヶ月に1回、研修会を年3回実施し、拘束をしないケアに取り組んでいる。不適切な言葉は気付いた時に管理者から注意を促し、自分でエレベーターを操作して外に出る利用者には、1階クリニック職員との連携協力に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修や外部研修に参加、定期的に委員会を開催、不適切なケアがないか、職員間でも意見を言い合える関係を作り、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	事業所内研修を行い、理解を深め活用できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際や制度改定時など、重要説明事項及び契約の内容を丁寧に説明、不明点などはその場で確認し納得できるように説明を行っている、契約書等はそれぞれ2部作製し、同意の署名捺印を頂き1部を交付している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議への参加で要望を聞いたり、定期的や必要時にご家族へ電話で連絡を行うなど、入居者・ご家族との良好な関係が構築できるよう努め、些細なことでもご意見を頂けるようにしている。	利用者には日常の会話で要望等を聞き、食事やレクリエーション等の活動に取り入れている。家族から面会や電話で出された要望を、コンビニエンスストア利用やコスモス見物等の外出に反映させる等、身近なことから対応に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のミーティングに法人代表が出席し意見交換ができ、少しの問題でもすぐに解決できるようにしている、月1回の法人全体の会議への参加も行い、自由に意見交換ができる場を設けている。	管理者は毎月ミーティング時に法人代表とともに職員の意見を聞く機会を設けている。職員の要望で休憩時間の取得について試行中であり、業務改善に反映できるよう取組んでいる。個別相談は管理者が受けて対応している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	就業年数や資格などにより手当を支給、職員の生活スタイルにより就業時間も考慮している、入居者の方や職員にとって必要な物は即対応できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入職時研修を実施、研修報告などで本人の気づきを大切にしている、事業所内研修や外部研修参加でも、参加するだけの研修ではなく担当制とし、課題を自分で調べ、学習の内容を発表する機会を設けている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に加入し研修会などに参加、また同法人内のグループホーム間でも研修内容などについて意見交換を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み後幾度か本人及びご家族と電話での連絡や面談の機会を持てるようにしている、また入院や施設へ入居されている方々については、医療面や介護面の情報も専門職より聞けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時など、本人を含めご家族の大変さも理解できるよう、聞く姿勢で接し、安心できるような声掛けに努め、初期段階から関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報やアセスメントを行う中で、本人・家族にとって何がより良いかを見極め、必要なサービスの提案ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできること、好むことを知り、出来る軽作業を一緒に行い、自信につながるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>サービス計画書に家族の役割を位置づけ、適度な距離感で家族も介護者としてかかわりを持ち続け、お互いに大切に思いあうことが出来る様にしている、感染症蔓延防止のため面会時間を制限しているが、短時間の面会や電話での対話ができるようにしている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居者間でも職員も参加し故郷の事や昔話を聞けるようにしている、家族等からの電話の際には本人と話ができるようにしている。</p>	<p>家族との居室面会や外出、事業所からの毎月の近況報告や3ヶ月毎のサテライト通信を送付し、これまでの家族と利用者の関係が途切れないように支援している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>本人が過ごしたい場所で居られるようにしている、気の合う入居者の方同士はお互いの居室を尋ね話を行うなどが見受けられ、入居者同士が話しやすい雰囲気ができるよう適宜、職員も参加している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>開設間もないため、退去された方はほとんどいないが、退去されても訪ねていただけるよう関係づくりに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思表示が困難な方でも、ご家族等からの聞き取りや本人の表情・言動などで、少しでも思いをくみ取れるようにしている、夜間帯の状態は夜勤者の申し送りなどで把握し、ミーティングやカンファレンスを開催し検討している。	利用者へ職員の方から声掛けを積極的に行い、思いや意向を表出しやすいように働きかけている。困難な場合は、家族からの情報や本人の表情等からくみ取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面談や電話などで、生活状況など情報を収集し、介護保険サービス利用があれば、担当ケアマネジャーなどからも情報を得られるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察・記録の中の情報収集や申し送り、毎月のミーティングで情報を共有できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで入居者全員の情報を共有、目標見直し時や変化時など担当者会議やカンファレンスを開催している。	本人や家族の意見を聞き、ミーティング時に出された職員の意見を入れて介護計画を作成している。更新時や状況変化時には家族も参加して担当者会議を行っている。モニタリングは3ヶ月に1回、見直しは6ヶ月毎に行っている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤から夜勤、夜勤から日勤への切れ目のない申し送りや、個々のケース記録で情報を得る、必要時はカンファレンスを開催、伝達事項は申し送りノートで共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な他科受診等、家族が支援困難な際には事業所に対応している、本人の状況にあわせ食事の時間や食事形態の変更、居室の様式替えなどを行い気分転換が図れるようにしている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症も5類になったとはいえ、まだまだ感染対策は必要な状況である、事業所への立ち入りは時間を制限しているが、感染対策を徹底し、必要な福祉用具の利用や、希望の方は、病院でのリハビリを実施している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を大切に、受診の際には書面での情報提供を行っている、家族の要望により、在宅医の紹介なども行っている。	契約時にかかりつけ医の希望を確認して、かかりつけ医継続を支援している。母体の医療機関・在宅診療所への変更等、意向に沿って支援に取り組んでいる。母体の医療機関との24時間医療連携や看護師の健康チェックがあり、他科受診は家族対応で実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日々の健康観察を行い、少しの変化でも看護師に報告、定期往診時や変化時など主治医へ報告を行い適切に対応できるようにしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>緊急な入院時は職員が付き添い、必要な情報提供を行い、入院中もご家族への連絡や入院先の病院の職員の方と適宜連絡を行い情報収集など連携を図っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に重度化した場合の対応に関する指針について説明し同意を得ている、状態変化時は、主治医・ご家族へ連絡を行い、感染対策を徹底し、短時間ではあるが適宜、面会ができるようにし、主治医の往診時に来所頂くなど、主治医より説明を受けることで家族も安心できるようにしている。</p>	<p>契約時に重度化等の場合の対応について、指針で説明し同意書をもっている。状況変化時に主治医から家族に説明を行い、家族の意向を再確認し、家族の意向に沿って支援に取り組んでいる。看護職員が複数配置されており、開設後間もないが看取り介護の事例がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事故発生時などを含め、対応方法など事業所内で研修を行い、職員全員が周知できるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防火訓練に加え、災害発生時を想定した訓練、職員の緊急連絡網での連絡等シュミションを実施、町内会長や民生員の協力も得られるようにしている。</p>	<p>年2回、昼夜想定避難訓練を同一建物のクリニックと合同で実施し、消防署の立ち合いを受けている。訓練時には町内会長・民生委員に声掛けする等、地域との協力関係を築いている。非常用の備蓄は、3日分の水・カップ麺・ごはん・缶詰等の食料及びカセットコンロを準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>接遇や人権擁護などの研修を事業所内で実施を計画、日ごろから職員間でもお互いの言動が気になる時には注意しあえる関係作りを行い、本人を主体とし、急がない、待つ介護に努めている。</p>	<p>接遇研修を年1回計画しており、一人ひとりに応じた言葉かけを行い、本人のペースで生活できるように支援している。居室入室時はノックをし、トイレはドアを閉めて外で待つ、申し送りは事務所で行う等、プライバシーを損ねないように配慮している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>その方に応じた言葉かけを心掛け、今したいことを尊重、塗り絵などの道具を分かりやすいところに置き、自由に使用できるようにしている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>それぞれの過ごし方を優先、一人で居室で過ごしたい方は、適宜訪室し見守りを行う、レクレーションや洗濯物たたみなど、無理強いすることなく、出来る時・したいときに参加できるようにしている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>朝夕、更衣の声掛けを行う、おしゃれに気を使う入居者と、その日の衣服を選び身につけることで満足できるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アレルギーの有無や一人ひとりの嗜好を聞き取りメニューに反映できるようにしている、行事食など目でも楽しめるよう色合いも工夫している。	専任の調理職員が調理し、個々に応じた食事形態で提供している。季節の行事食や誕生日のケーキ、一緒におやつを作るなど、食事を楽しんでもらえるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定・毎食の食事をチェック、栄養士の献立で調理したものを提供、10時・15時、入浴前後の水分補給及び、夜勤帯でも就寝前や早朝に水分を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は口腔ケアの物品準備をし促し、自分で困難な方は職員が介助を行っている、必要に応じ訪問歯科診療を受け、口腔ケアの指導なども受けられるようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失禁の少ない方は、昼間だけでもトイレで排泄できるよう、布のパンツで過ごしていただき、訴えにくい方に対しては、動作や表情を見て、声掛けしトイレ誘導を行っている、本人の能力を見極め手すりなどを使用することで動作が自立できるようにしている。	利用者の仕草や表情等を観察して声掛け・誘導を行い、昼間はトイレでの排泄を基本に支援しており、排泄の失敗が減少した事例がある。トイレ付きの居室には職員が声かけや移動を支援している。パットは個別に検討したり、夜間のみオムツ使用の場合もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は消化の良いものを、野菜などが多く摂れるよう工夫している、水分補給や運動も心がけ、便秘傾向にある方は主治医へ相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	ミストシャワー浴を、週3回計画している、声掛けを行い、本人のタイミングで入浴できるようにしている、今は入りたくないという方でも、時間をずらすなどして、入浴した後は「気持ちよかったー」と満足を得られている。	週3回午前中にミストシャワー浴を実施し、冬季は足浴も実施予定である。汚染時もシャワー浴を実施し、気持ちよく過ごしてもらえるように対応している。嫌がる場合も、声掛けで入浴ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に応じ就寝できるようにしている、消灯になっても眠れない方は、ホールで職員と一緒に対話などし安心できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師居宅療養管理指導を受け、薬剤師に薬の効能や副作用なども聞くことが出来ている、処方薬は個々に分かりやすく飲みやすく分包してある物を職員が開封し確実にに行えるよう確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>居室で自分の好きなように時間を過ごしたい方、乾いた洗濯ものを几帳面にたためる方、ホールで自分お塗りたい絵を塗る方、居室の掃除をすることで職員に感謝され、喜びを感じる方などさまざまであるが、本人の役割につながるように努めている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>コロナウイルス等感染予防のため、外出はほとんど行っていない、ご家族の協力で病院受診時の外出や人混みではない場所へドライブなどは勧めている。</p>	<p>利用者の希望でコンビニエンスストアに出かたり、数人でアジサイやコスモス見物のドライブに出かけており、外出時は法人の車いす対応車を使用している。今後は計画的に外出の機会を設ける予定である。家族の協力で受診時に外出している利用者もいる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>数人の入居者の方はお金を所持し、訪問販売の（ヤクルト）支払いを行っている方や、所持しているだけで満足している方など、紛失が無いよう支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族からの電話の取次ぎや、携帯電話やタブレットを所持している方へは充電や、電話がかかってきたときの応答などの支援を行い、家族へ手紙を出したいという方に、住所などを書く支援をお行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除などで清潔が保てるようにしている、七夕飾りや季節の花々などの絵等、入居の方々と作成した作品の飾りつけを行い、自分の作品もいつでも見ることが出来るようホールに飾っている。感染対策のため窓を開け換気を行い、アルコール消毒を実施している。	リビングはエアコンで適度な室内環境に調節され、換気は窓を開けて行っており、臭いがこもらないように芳香剤も使用している。リビングには季節の作品が飾られ、廊下は車いすが並走できる広さがあり、利用者は廊下で日光浴をしたりして、くつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほぼ決まった席でお互いが馴染となり、馴染の相手が傍に居ることで、安心でき談笑している姿もある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には本人が大事にしていたものや写真など、家族の協力で持参していただいている、ベッドや家具も本人の身体状況や好みに応じた配置としている。	広い居室にはベッドやタンス・洗面台が備えてあり、トイレ・クローゼット付きの部屋も4室ある。本人は使い慣れた寝具やハンガーラック・神棚・物入れ・ぬいぐるみを持ち込んだり、写真や化粧品等の好みの品を身の回りに置いて安心している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には本人、家族の了解を得て名前を書き、自分の居室と分かるようにしている、入居の方々の移動導線上には障害物が無いようにし、自立歩行可能な方々には捕まりやすい手すりの設置があり、自立した移動が続けられるようにしている。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない